

Ⅸ. 懇談会等【他 1：会員相互啓発事業】

(1) 産業調査研究会

産業調査研究会（鈴木純担当副代表幹事、湯川智子代表世話人、内田士郎代表世話人）は、会員相互の交流・研鑽、国内外の諸問題に関する情報・意見交換、多様な業種・規模の企業経営者間における親睦の深化を目的に、14 グループそれぞれに世話人・運営委員を置き、自主運営を行っている。

本年度の定例会は、グループ毎に昼食会形式で開催し、メンバーからの話題提供のほか、さまざまな分野で活躍する外部講師を招聘し、幅広いテーマによる講演と意見交換を実施した。加えて、各種見学会や、親睦を目的としたグループ単位もしくは複数グループによる懇談会なども実施し、各グループが活発な活動を展開した。

9 月には、従来の 14 グループ懇談会に「創発の会」メンバーおよび過去一年間に入会した新入会員を加えた合同懇談会を開催し、新浪代表幹事をはじめ、189 名の会員が出席した。会では、新浪代表幹事が 12 月末までの「お試し参加無料キャンペーン」の実施を発表し、未登録会員に参加を呼び掛けた。

3 月には、鈴木担当副代表幹事および湯川、内田両代表世話人のもと「14 グループ世話人会」を開催した。世話人会では、2 月に実施した活動アンケート結果と会員エンゲージメント委員会、1-Day ミーティングでの議論を踏まえた提案を行い、活発な意見交換を行った。その結果、希望に応じて複数グループへの登録を可能にすること、他グループへの参加を 1 回無料・2 回目以降より会費を申し受けること、新設グループの検討を行うこと、出席率 1 割以下の会員へのグループ移動の促進、世話人・運営委員の人数を柔軟にすることなどが決定した。さらに、新入会員全員への産業調査研究会の無償提供とこれに伴う入会金の引き上げについての賛同を得て、幹事会等で審議を進めることとなった。会合終了後には夕食懇談会を開催し、グループの枠を超えた交流を図った。本年度末の登録者総数は 946 名となり、2023 年度末より 36 名増加した。

各グループの活動状況は以下の通りである。

〔第 1 火曜グループ〕

例会を 8 回、見学会を 1 回、懇談会を 3 回、運営委員会を 1 回開催した。

本年度は外部講師の招聘を中心とし、教育、オープンイノベーション、地域活性、生成 AI などの幅広いテーマにて、講演と意見交換を行った。メンバーからは自動車産業の構造変化、M&A など、事業の紹介や課題等についての話題提供と意見交換を行った。メンバー間の交流を深める懇談会を 5 月に、サントリーのビール工場見学会および懇談会を 10 月に実施した。また 1 月には 2023 年度まで 4 グループ（2 水・2 金・3 水・4 火）にて開催していた新年懇談会へ参加した。運営委員会では、2025 年度の運営体制・活動

方針・講師招聘などについて討議・決定した。

〔第1水曜グループ〕

例会を8回、見学会を1回、懇談会を2回、運営委員会を1回開催した。

例会では、外部講師6回、内部講師2回の割合で実施した。経営や政治などの話題だけでなく、地球環境や先端技術、映画などの文化領域まで幅広くテーマを設定した。メンバーからの要望もあり、懇談会を2回実施し、メンバー間の交流を深めた。見学会では、街歩きをテーマに海老原商店周辺の散策を実施した。運営委員会では、幅広いテーマで講演を実施する方針にて、2025年度の運営体制や講師招聘の企画などについて討議・決定した。

〔第1木曜グループ〕

例会を7回、見学会を2回、懇談会を1回、運営委員会を1回開催した。

メンバー同士の交流の深化を目的に、例会はメンバーからの話題提供を基本とした。飛行機を使った旅行の変遷、フランスを通じて見える日本など、メンバーの経験や事業の動向、課題等についての話題提供と意見交換を行った。外部講師を1回招聘し、心を落ち着かせる内観の法等の講演と意見交換を行った。9月に東京貨物ターミナル駅、11月にセイコーミュージアム 銀座での見学会を実施し、9月の見学会終了後は懇談会を実施した。2月に運営委員会を開催し、2025年度の企画運営について討議・決定した。

〔第2火曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を1回開催した。

外部講師からは、本年の金融経済、中国における半導体・自動車産業の行方、投資マーケットにおけるESG等、幅広いテーマの講演と意見交換を行った。このほか、1月には新年の夕食懇談会を開催し、3月には神田川・環状7号線地下調整池の見学会を実施するなど、多彩な企画で親睦を深めた。運営委員会は2月に開催し、2025年度の運営体制と企画等について討議・決定した。

〔第2水曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を2回、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバーより所属企業・業界の現状と展望等についての話題提供を、外部講師よりインターネット、地方創生、石油産業等の幅広いテーマについての講演および意見交換を行った。防衛省の見学会および懇談会や、5グループ（1火・2水・2金・3水・4火）合同の新年懇談会も実施した。運営委員会は3月に開催し、2025年度の運営体制や講師招聘の企画などについて討議・決定した。

〔第2木曜グループ〕

例会を10回、見学会を1回、懇談会を2回、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバーより企業経営、ダイバーシティ、所属企業の取り組み内容等について話題提供を、外部講師より、山岳救助の経験から学んだリーダーシップ、城端蒔絵、中国の金融等の多岐にわたるトピックについての講演および意見交換を行った。そのほか、JAL スカイミュージアムの見学会を1月に実施した。懇談会は11月および1月見学会後に実施し、メンバー間の交流を深めた。運営委員会は3月に開催し、2025年度の運営方針等について討議・決定した。

〔第2金曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を2回開催した。

例会では、メンバーより、自社の事業の紹介や取り組みを中心とした話題提供を、外部講師より、日本の経済安全保障政策の現状や課題、大統領選挙後の米国の行方、モンゴルの歴史と日本との関係などをテーマに講演および意見交換を行った。1月には、5グループ（1火・2水・2金・3水・4火）合同の新年合同懇談会を開催した。運営委員会を7月と2月に開催し、7月には本年度の講師招聘の企画を、2月には2025年度の運営体制などについて討議し、活動方針を決定した。

〔第3火曜グループ〕

例会を8回、見学会を2回、懇談会を1回、運営委員会を2回開催した。

例会では、メンバーより所属企業の成長戦略、他グループメンバーより日本銀行と金融政策について、外部講師より、脱炭素社会における原子力の役割、宇宙開発と社会実装、米国新政権の外交・安全保障政策など幅広いテーマで話題提供・講演および意見交換を行った。9月に全生庵にて座禅体験会を、1月に恒例の新年懇談会を、3月にチームラボボーダレスの見学会を開催した。運営委員会は2回開催し、本年度および2025年度の企画運営について討議した。

〔第3水曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を2回開催した。

例会は、メンバーからの話題提供と外部講師の招聘を半数ずつとし、講演と意見交換を行った。外部講師からは、高い幸福度を誇るフィンランドの暮らしの知恵や心身の老化予防の一般教養、経済安全保障やAIにかかる法制度の現状、米国政治の展望、エネルギー安全保障など、多岐にわたる分野について学びを深めた。歌舞伎座への見学会や5グループ（1火・2水・2金・3水・4火）合同の新年懇談会も実施した。年2回の運営委員会では2025年度以降の運営方針を議論した。

〔第3木曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を2回開催した。

例会では、メンバーより所属企業の事業内容や問題意識、外部講師より大相撲・宇宙ビジネス・日本の財政・Well-being・組織改革・歴史等、多岐にわたる話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では日本貨物鉄道(株)の「東京貨物ターミナル駅」を訪問し、コンテナホーム、研修センター、物流施設などを見学した。交流促進のため、10月に懇談会を開催した。運営委員会は12月と3月に開催し、2025年度の運営体制、講師候補、見学先について討議・決定した。

〔第4火曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を2回、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて話題提供を、外部講師からは、大相撲のキャリア、AI時代のアート、日本ワインや日本酒の未来について等、幅広いテーマで講演および意見交換を行った。5月にはPwC Technology Laboratoryへの見学会を実施し、見学会後に懇談会を開催した。1月には、5グループ(1火・2水・2金・3水・4火)合同の新年懇談会を開催した。運営委員会は2月に開催し、本年度の活動の総括とともに、2025年度の活動計画等について討議・決定した。

〔第4水曜グループ〕

例会を10回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を2回開催した。

2022年度より「イノベーション」を活動テーマに掲げ、例会や見学会を企画・開催した。例会では、メンバー所属企業の取り組みの紹介、有識者による水素社会の実現、賃金のデジタル払い、アートによる社会課題解決などをテーマとする講演および意見交換を行った。7月には森ビル デジタルアート ミュージアム：エプソン チームラボボーダレスを見学後、懇談会を開催し、交流を深めた。6月と12月の運営委員会では、今後の活動計画や運営方針を議論・決定した。

〔第4木曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を2回、運営委員会を1回開催した。

本年度の例会はメンバーからの話題提供を基本に実施した。メンバーの自己紹介や所属企業の特徴や強み、業界の動向や企業戦略等を披露し意見交換を行ったことで、メンバー間の交流を一層深めた。11月には東京国立科学博物館にて、学芸員の解説付きで「鳥展」を見学し、終了後に懇談会を行った。1月には恒例の新年懇談会を開催した。2月に開催した運営委員会では、本年度の振り返りと2025年度の運営体制、活動方針等について討議・決定した。

〔第4金曜グループ〕

例会を8回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を1回開催した。

本年度は外部講師の招聘を中心とし、経済情勢、企業経営、日本の伝統文化、スポーツなどの幅広いテーマにて、講演と意見交換を行った。11月には、陸上自衛隊習志野駐屯地第1空挺団を訪れ、国防の最前線を担う日本唯一の空挺部隊を見学した。加えて、12月には、恒例の忘年懇談会を開催した。運営委員会は12月に開催し、2025年度の運営委員体制や活動方針等について討議・決定した。

(2) 創発の会

創発の会（吉松徹郎座長、桜井伝治座長）は、新入会員（入会2年以内の会員）を対象とする懇談会である。本会の理念や委員会等の最新の活動状況を幹部会員から伝え、メンバーの識見拡大に寄与するとともに、忌憚のない意見交換を通じて相互に啓発し合い、本会活動全体への積極的な参画へ繋げることを目的に設置されている。

7月に開催した第1回正副座長会議において、本年度の運営方針について議論した。具体的には、本会活動へのメンバーのエンゲージメント向上を狙い、各会合に政策委員会の委員長を講師に招き、各委員会の取り組みや議論に関する理解促進を目指すこととした。また、講師には自身の経験をもとに、本会との関わり方や活動の進め方もヒアリングすること、昨年度から導入したグループ制を継続し、副座長をリーダーとする六つのグループでネットワークを構築し、本会活動に参加しやすい雰囲気の醸成を目指すことを決定した。また、新たに分科会を年2回開催することとし、グループ単位で小会合を自由に企画・実施することと、メンバー間の相互交流を促進するため、自己紹介集を作成することを決定した。

12月に開催した第2回正副座長会議では、第1回分科会会合を振り返り、創発の会のあり方を検討した。

全体会合は、7月から7回の会合を開催し、7名の委員長を講師に迎えた。各回では、講演と意見交換に続き、予め講師が設定したテーマに基づき、正副座長のリードによるグループディスカッションを行った。あわせて、ネットワークづくりの場として、毎回、カクテルパーティーを実施した。3月に開催した第7回会合は、修了式を兼ねて開催した。分科会は10月と2月に実施し、メンバーが所属する企業の施設訪問や事業に関するヒアリング、ワークショップなどを行った。各会合終了後には満足度アンケートを実施し、メンバーのニーズを反映した運営の改善に活かした。

(3) 経営懇談会

経営懇談会（及川健一郎世話人、加藤洋世話人）は、1997年の発足以来、企業の第一線の経営者（副社長・専務・常務・執行役クラス）を構成メンバーとし、企業経営にお

ける実践的な課題について意見交換を行う自主運営の懇談会である。

まず 2023 年度体制の下、木村穰介 委員の紹介で 5 月に「サントリー山崎蒸留所」見学会を、7 月に 2023 年度活動を締めくくる夕食懇談会をそれぞれ実施した。

本年度活動としては、4 名の新任委員を含む 20 名のメンバーで、9 月から 3 月までに、定例会合を 12 回、見学会を 2 回、懇談会を 1 回開催した。なお、本年度 7 月に HP を通じて一般公募を行ったが、参加者はなかった。

第 1 回会合において、本年度の活動テーマを「変わりゆく社会に対応するために～さまざまな視座から」とした。定例会合では、世話人 2 名と委員 7 名から自社の経営課題や取り組み事例についての話題提供および問題提起を行い、質疑応答と自由な意見交換によって議論を深めた。また、メンバーへのアンケート結果に基づき外部有識者として、ジョセフ・クラフト ロールシャッハ・アドバイザリー代表取締役より「新米政権と企業が直面する今後の国際情勢」と題して、田川欣也 Takram 代表取締役より「ブランドとイノベーションのためのデザイン経営」題して、それぞれ講演いただいた後、意見交換を行った。

見学会は、及川健一郎 世話人の紹介で 10 月に「秋田洋上風力発電」を訪問し、齊藤滋宣 能代市長との意見交換、猿田和三 秋田県副知事への表敬訪問を実施した。加えて、田中利明 委員の紹介で 3 月に「沖縄久米島の海洋深層水による温度差発電実証設備」を訪問したうえで、海洋深層水を活用した企業等を見学し、桃原秀雄 久米島町長、中村幸雄 久米島副町長との意見交換も実施した。

加えて、本年度の活動として、2025 年 4 月に懇談会を実施予定である。

(4) 幹事懇談会

幹事懇談会は、代表幹事、副代表幹事、幹事、監査役、終身幹事、事務局長及び常務理事により構成され、会員相互の交流、情報交換の場として毎月第一週目の金曜日（1 月、5 月、8 月は休会）に昼食懇談会の形式で開催している。本年度は、対面・WEB の併用で、9 回の会合を開催した。

新任の筆頭副代表幹事 1 名および副代表幹事 4 名に加え、幹事 4 名からご自身の社業や業界動向を中心に、経営理念や経営課題、問題意識などについて話題提供をいただき、質疑応答と意見交換を行った。